

再生水先進地、カリフォルニアで学ぶ 「水のリスクコミュニケーション」



地球環境学舎修士 2 年
三輪 千晴
アメリカ
2016 年 9 月 9 日～
2016 年 10 月 30 日

渡航概要と内容

今回の渡航の目的は、(1)下水を再処理して農業水や飲料水に利用する再生水の広報活動に関して、(2)その広報を担当するリスクコミュニケーターの実態に関して、この分野の先進国であるアメリカから学ぶことであり、2 か月間の滞在でこれら目的を達成できたと感じる

具体的には、カリフォルニア州を中心に、再生水を間接飲用や灌漑用水に利用している 7 つの地域の水道局（Orange County Water District、Trabuco Canyon、West Basin Municipal Water District、Pure Water San Diego、Santa Clara Valley Water District、Escondido city、Irvine Ranch Water District）を訪ね、各事業の取り組みや、広報活動に関してインタビューを行った。さらに、水再生利用に特化した広報、リスクコミュニケーションのコンサルタント会社である Katz & Associates の方にもインタビューを行った。また、水事業体で広報活動に関わるより多くの方から、広報における留意点や有用点の定性的な情報を得るため、アンケート調査も実施した。

リスクコミュニケーター養成の実際に関しては、カリフォルニア衛生協会が企画した、Communication Workshop やアンケート調査を通して把握することができた。ワークショップには、水再生にかかわるエンジニアから市の職員、これから広報関係の仕事に就く人など幅広い職種の人たちが参加していた。リスクコミュニケーションの方法を講義様式で学んだ後に、数名のグループを組んで実践を学んだ。アンケートではリスクコミュニケーションを学んだ場として、On the job training が多いことが分かった。リスクコミュニケーターや再生水の広報担当者たちは実践・実務で学ぶことが多いようだった。研修全体を通して、カリフォルニアにおける水再生事業の「広報」が持つ重要性の高さを多くの人々が認識していることを実感した。

渡航を通じて感じたこと

各事業体へのインタビューの中で特に印象的であったのは、毎日25万トンの再生水を創出しているOrange Countyの広報活動であった。彼らは、再生水を間接飲用水に利用しているが、事業を始める約5年前から市民への積極的な広報や、小中学生への教育を始めていた。またその際の広報活動には約4億円もかけたという。その他の事業体も日本の自治体では考えられないほどのコストを広報にかけていた。日本では広報開始がプロジェクト開始のせいぜい1年前からで、コストもかなりの低予算だろう。カリフォルニアと日本の公共事業体の市民教育の違いや、更には経済体制の在り方に、大きな興味をそそられた。さらにアメリカの多くの事業体では、市民が設計段階から事業を職員と共に評価、改善し、計画を進めていくことを知り、国民性の違いはあるが、日本市民が積極的に行政活動に関わっていく重要性を感じた。

また2か月のアメリカでの滞在を通し身に染みて感じたことは「ダイバーシティ」であった。研修先のPACEには中国、メキシコ、スウェーデン、ドイツからの学生がインターンシップに当たり前のように来ており、自らの専門性を高めていた。しかし生憎、この研修で日本人の学生に合うことはなかった。「自国にとどまることなく世界に目を向けて自らのキャリアを歩むこと」これが今日の「キャリアの普通」であることを実感し、自分のスキルを持って世界に通用する人材になりたいと心から思えた。

今回の経験をどのように今後生かしていくか

1点目は、私自身のキャリアに生かしていきたいと思う。来年度からマーケティングやブランディング支援を強みとしたコンサルティング会社で働く予定であるが、マーケティング大国アメリカで行った研修を忘れずに幅広く、高い視座をもって業務に励みたく思う。また将来は、地方自治体の公共事業や、地域住民と共同での事業作りをサポートし、より人々が快適な住環境を送れる社会をサポートする人材になりたいと思っている。アメリカで実際に行われていた住民と行政との討論の場や、広報活動を参考にしていきたい。

2点目は、生涯に渡り「ダイバーシティに飛び込むオープンマインド」を忘れないようにしたい。今回の研修で英語力はもちろん、精神的な面で異国の地で異国の人と議論、関係性を築くことができた。今後、社会に出るうえで日本国内にとどまらず、チャンスがあれば世界を舞台に仕事をしていきたいと思えるようになった。

最後に、本研修を修士論文の執筆にも生かしたいと思っている。私の研究テーマは「沖縄での再生水利用のアウトリーチ」であるが、本研究で得たアメリカでの情報も大いに取り入れ、包括的かつ実務的な提言を含んだ、実りある修士論文を書き上げたい。

主な奨学金の使途

- *渡航費
- *海外旅行保険
- *宿泊費
- *交通費・ワークショップ参加費
- *食費 など



Orange County 科学会で沖縄の再生水事例を紹介している様子



Orange County Water District で再生水工場の見学ツアーに参加した際の様子



Trabuco Canyon 水道局長にインタビューしている様子



Katz & Associate の方とともに San Diego Pure Water を視察している様子



Escondido の市の職員さんと再生水を利用しているアボカド農家さんへインタビュー



Communication Workshop で参加者が討論している様子